



東京医科歯科大学 学長
田中 雄二郎先生

1980年、東京医科歯科大学附属病院第二内科。1982年、関東通信病院消化器内科医員。1986年、米国マウントサイナイ大学附属アルコール研究治療センターリサーチフェロー。2001年に東京医科歯科大学医学部附属病院総合診療部教授並びに部長に就任。その後、同大歯学融合教育支援センター長、医学部附属病院長、理事・副学長などを歴任。2020年4月から同大学長。

新型コロナウイルスは、2021年になっても衰えることなく全世界に蔓延し、政治・経済から文化、芸術、スポーツまであらゆる分野に深刻な影響を及ぼしています。その収束のため、そして収束後の新しい社会を再構築するため、世界では様々な分野の人々が模索を続けていますが、その中で医療職の重要性が改めて認識され、感染症のリスクと闘いながら医療の最前線に立つ医療従事者に深い畏敬の念が捧げられています。ポストコロナ時代に向けて医療はどうあるべきか、医療を目指す人にとどのような資質が求められるのか。知と癒しの匠を創造し、人々の幸福に貢献することを理念に、トータル・ヘルスケアを推進する東京医科歯科大学の田中雄二郎学長にお聞きしました。

「コロナ」とは一体何だったのかを総括するのはまだ早いとしても、コロナは確かに人類の歴史の流れを加速させました。つまり地球環境も含め、人類社会で今後5年、10年のレベルで解決することが望まれているさまざまな課題がありますが、その解決をもっと早くするように迫られているように見えるのです。

例えばSDGsは2030年に実現を目指す世界共通の目標ですが、今、新型コロナウイルスの脅威に全世界がさらされ、人類は改めて「世界は一つ」ということを実感として抱くようになったと思います。パンデミックは一國だけで対処できる問題ではありません。国境が完全に閉じられていなければ別ですが、人の流動性が高まっている現代ではあつという間に全世界に広まります。それを撲滅するためにはワクチンを全世界に配るなど世界が共通して取り組む必要が出てきます。

温暖化に象徴される地球環境問題は、決して一國だけが取り組むべき問題ではありませんが、これまで国ごとに温度差がありました。しかし、今回の新型コロナウイルス感染症の拡大を通じて、こうした温度差は少なくなっていくのではないのでしょうか。また、デジタルトランスフォーメーション(DX)、デジタルの変革を巡る問題もパンデミックによる変化の一つです。サイバー空間と現実空間を高度に融合させたシステムにより経済発展と社会的課題を解決しようというソサエティ5.0の推進が叫ばれており、その実現も喫緊の課題となっていました。パンデミックによってリモート会議やテレワークなどの導入が様々な機関に及んだことで、未来の夢と考えられていた

ル・ヘルスケア」は社会に貢献するためのキーワードとしてまさにふさわしいものと言えるでしょう。

一方で、高齢化が急速に進む社会の側から見ても、トータルヘルスケアは必要不可欠な課題となっています。複数の疾患を抱えている高齢者は少なくありませんが、トータルヘルスケアには予防医学という概念も含まれています。こうした社会のニーズと、本学の目指す教育研究の方向性がマッチしたトータルヘルスケアの実現に向け、今後も一層邁進していきます。

世界です。医療従事者は社会と密接に関わっています。社会にとってかけがえない仕事なのです。今回のコロナ禍でエッセンシャルワーカーという言葉が使われ、医療従事者もその一つとして認識されるようになりました。たとえ小さなことでも、社会のため、そして人々のために働くことに喜びを感じることもできるかどうか、あるいは生命科学そのものに興味があるか、それを自分に問いかけてみてください。

本学の理念である「知と癒しの匠を創造」という言葉には、「知性とやさしさ」を兼ね備えて患者さんを診る人を創る」という意味とともに、「新しい病の克服に向かって挑戦する」というメッセージも込められています。本学とともに力を合わせ、未来を切り拓いていきましょう。

し、人々の幸福に貢献するという旗印の下、人と社会のために尽くしたいという気持ちが一体となり、全学の連携システムがうまく働いているからその成果であり、一層気を引き締めていかなくてははいけないと思っています。

今年1月には、本学と一橋大学、東京工業大学、東京外国語大学による「四大学連合ポストコロナ社会コンソーシアム」に関する覚書も締結。教育だけでなく、ポストコロナの文理の枠組みを超えた研究についても連携していくことになりました。

新型コロナウイルスによる影響がまだ続くことが予測される中で、学生の皆さんも新しい環境に適応する

ことが大切です。例えば、リモートで勉強することを不便だと思わず、楽しんで活用することを学んでほしい。学生時代に経験した社会の大きな変化と、そこで得られた適応力は、将来必ず役に立つはずです。

ポストコロナ社会に向けてトータル・ヘルスケアを実現

新型コロナウイルス感染症の危機克服後の社会は、その仕組みや価値観が大きく変わってくることでしょう。2022年4月から指定国立大学法人となる東京医科歯科大学は、このポストコロナ社会に向けて新しいトータル・ヘルスケアの考え方を社会に提示していきます。

医学科・保健衛生学科(医学部)、歯学科・口腔保健学科(歯学部)と様々な学科を擁し、チーム医療の充実に努めている本学にとって、「トータル

「知と癒しの匠」たちが自律と分野を超えた協調で力を合わせて未来を拓きトータル・ヘルスケアの実現へ

「知と癒しの匠」たちが自律と分野を超えた協調で力を合わせて未来を拓きトータル・ヘルスケアの実現へ



「知と癒しの匠」たちが自律と分野を超えた協調で力を合わせて未来を拓きトータル・ヘルスケアの実現へ